

くいちカルタ

詠み句まっぷ



すそつとよ
は、国立全域を詠んだ句

んをわろれるりらよゆやもめむみまほへふひはのねぬになとてつちたそせすししさこけくきかおえういあ
 青柳の お稲荷様に 手を合わせる
 いにしへの 貝殻坂に 夢はせる
 梅の花 くにとち示す 市のマーク
 江戸街道 おもかげ残す 庚申塚
 おながどり ひらり木の上 谷保天神
 風薫る 桜並木の 大学通り
 きれいだな ママ下の水 気持ちいい
 くにたちの 学びの絆 公民館
 元気な声 未来にひびけ 児童館
 古民家の 涼風むかしに 思いはせ
 さくら通り 春は少女の 頬の色
 静かなる 歴史が眠る 南養寺
 静かなる 緑のくにたち 守りたい
 せみいっばい 坂道にある ボンコえん
 空あおく シジュウカラ鳴く 秋の里
 滝乃川 天使のピアノ 響く園
 地域で清掃 みんな自慢の 北大通り
 つくろうよ 花いっばいの 国立市
 手をとりて 互いに支える ポランティア
 とれたての くにたち野菜 おいしくて
 流れゆく 矢川はホテルの 光る道
 日本初 キウイ栽培 発祥地
 ぬしはだれ 城山の中 虫さがし
 願いごと 成績あがれ 谷保天で
 農業展 高くつみあげ 宝船
 はるばると 今年も飛び来る ツバメたち
 一橋 歴史をききむ 兼松講堂
 福祉会館 語らいはずむ なごみの湯
 平和都市 アンネのバラが 咲き誇り
 穂が実り 谷保の田んぼに 秋の風
 まち火消し 伝統受け継ぐ 出初式
 見晴らしは どこにも負けぬ 富士見台
 むらさきや ピンクに染まる 朝顔市
 目印は ヒマヤチの 小学校
 もぎとった 多摩川梨を 全国へ
 谷保・矢川 走る電車は 南武線
 夢紡ぐ 学舎多き 文のまち
 横顔の ピノキオに似た 国立市
 螺旋坂 のぼってお花見 歩道橋
 リサイクル ゴミを減らして 再資源
 瑠璃色に 空が輝く 旭通り
 連山が 夕日に映える 石田大橋
 露地野菜 くにたち産の ほうれん草
 わいわいと にぎわう祭り 天下市
 をちかたに 富士山をのぞむ 富士見通り
 んとこしょ 多摩蘭坂は 富士見える

くにたちカルタ

平成23年12月26日 初版発行

企画・編集 国立市ボランティアセンター運営委員会
著作・発行 国立市社会福祉協議会・国立市ボランティアセンター
国立市富士見台2-38-5 くにたち福祉会館

※「くにたちカルタ」の無断複写・複製を禁じます。

遊び、学び、出会うために

くにたちカルタ

「くにたちカルタ」は、国立の歴史や自然、風景やま
ちのことを詠み、絵にまとめたもので、遊びながら郷土
を知り、郷土愛を育んでいくためにつくりました。

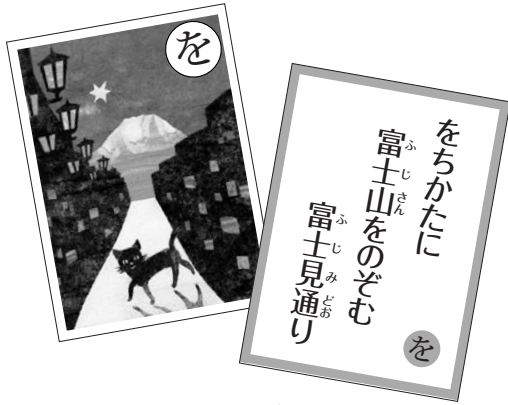
その作成には多くの人々がボランティアでたずさわ
り、準備期間を含めて2年以上の歳月をかけて完成にいた
りました。この間、小学校1年生から100歳の方まで、
500名を超える方々にご協力をいただきました。

この「くにたちカルタ」での遊び、学びを通じて、
人々が出会い、つながり、また改めて名所・旧跡に足を向
けるきっかけになればと考えています。そして、その積み
重ねが、さらに豊かな国立のまちにつながっていくことを
願っています。

国立市ボランティアセンター運営委員会が企画し、
市民のみなさんの協力によってつくりあげた「くにたち
カルタ」は、作成の過程そのものを誇りに思うとともに、
関わっていただいたすべてのみなさま方に深く感謝
申し上げます。

平成二十三年十一月

国立市ボランティアセンター運営委員会



最高齢(104歳)の方が詠まれた句

くにたちカルタで遊びましょう

友だち同士やご家庭で、いろいろな方法を考えて遊んでくださ
い。(国立市ボランティアセンターホームページでも遊び方を紹介し
ています。)また、競技カルタを楽しむこともできます。

1 競技カルタの方法

- (1) 団体競技(3人が1チームとなり、2チームで勝負します。)
- (2) 個人競技(1人対1人で勝負します。)

2 競技に必要な係

進行係 1名 (競技を進めます。人数が少ない場合
「読み手」が兼ねる事ができます。)

読み手 1名 (読み札を読みます。)

審判員 各試合に1~2名 (公平に審判します。)

3 競技に用いる札

取札、読札とも四十六枚です。

4 競技の準備

(1) 団体競技は、3人が向かい合って1列に並びます。この陣の幅
は1メートル50センチ以内で、3人が適当な間をおき、両膝
は揃えて(お尻は上げて)も良い)座ります。個人競技の陣の
幅は60センチ以内とします。

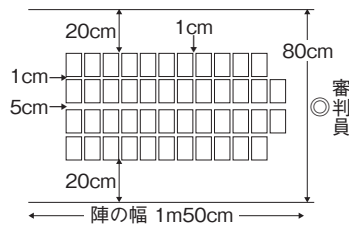
(2) 進行係の合図で真ん中の人が代表となってジャンケンをし、
勝った人が札をよく切つて、二十三枚ずつに分けて少し離し
て中央に置きます。ジャンケンに負けた人が先にどちらかを
取り、勝った人は残った方を取ります。

(3) 札の並べ方

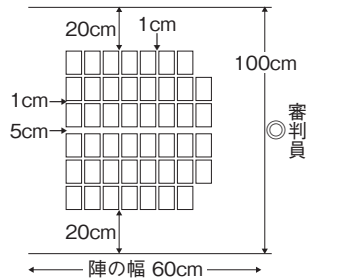
進行係の合図で、真ん中の人が、自分の陣の審判側上段よ
りすみやかに並べます。(団体戦の場合は二段、個人の場合
は三段)他の二人は記憶の体制に入ります。
両方の陣の間は、5センチ離し、札と札との間は上下・左右
とも1センチ程度離します。札と選手の膝頭との間は、20セ
ンチ以上あけます。

5

〈団体競技〉



〈個人競技〉



記憶時間
「かるた」を並べ始めてから5分間を記憶時間とします。
この間に取札を記憶します。

6 競技

(1) 記憶時間が終わると競技に入ります。

(2) 「読み手」は初めに「空札」として「横顔のピノキオに似た
国立市」を2回読みます。(以降、空札はよの札)。これが予告
となり、次に読む札から取り始めます。読み札は選手により
取られても必ず2回繰り返し読み、次の札に移ります。

(3) 競技中は勝手に札の位置を変えてはいけません。

(4) 取札が最後の2枚になったとき、どちらのチームの札が残つて
いても、その札を中央に横30センチ程度離して並べます。団
体戦の場合は3人の真ん中の人が代表となり争います。この
時「読み手」は試合開始の時と同じく、「空札」を2回読み、
それが予告となり次に読まれる札が取り札となります。
最後の2枚のうち、1枚を取った人が残りの1枚も取りま
す。ただし「お手つき」をした場合は2枚とも相手の札とな
り、さらに「お手つき」として手持ちの1枚を相手に渡しま
す。「同時お手つき」の場合は2枚とも「審判預り」(その札
を審判に渡すのでチームの得点にはなりません)となります。

7 採点

採点の計算は、1枚1点とします。ただし団体競技の場合
は、次のような「やく札」があります。
国立市五札 **くにたち**の5枚揃って20点
富士三札 **みをん**の3枚揃って10点
くにたち三札 **うそよ**の3枚揃って10点
個人競技には「やく札」はありません。
同点の場合は、よの札のある方を勝とします。

競技上の注意

(1) 両手を使ったり、カルタの上にかぶさつてはいけません。使わ
ない方の手は膝から前に出さないようにし、使う手も札が読
まれるまでは、膝の上におくが、膝頭より前に出さないよう
におきます。

(2) 札を取る時は、はじいても、押しでも引いてもとばしても良
いですが、故意に飛ばしてはいけません。札に指が早く触れ
た方が勝ちです。

読まれた札以外に手が触れた時は「お手つき」となります。

(3) お手つき

自分の陣でも、相手の陣でも誰かが「お手つき」をしたチ
ームは、自分たちの手持ちの札の中から1枚を相手チームに渡
します。両チーム同時に「お手つき」した時、または手持ちの
札のない時は渡す必要はありません。

(4) あいこ

両方の手が重なったら下の手の人が取ります。同時の場合
は自分の陣内に札があった人が札を取ります。但し、団体戦
の時に、その札が「やく札」の時には「審判預り」とします。

(5) 競技の始まりと終わりには、互いに札を交わしましょう。

(6) 相手に不満があっても直接「言い争い」をしないで、審判を通
じて堂々と意見を述べましょう。